

# 令和7年度新宿区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

## 1-1 活動テーマ

### 砂あそび



## 1-2 テーマ設定理由

広い砂場を活用し、日頃から砂に触れ、感触遊びや型抜き遊びなどに興味を示して遊ぶ姿が見られていた。形の変化に気がついたり、感触の違いを発見したりする姿が見られた。こうした子どもたちの疑問や発見を保育者が捉えて、遊びの発展や広がりを支えるための砂場環境をつくり、一緒に考えて遊びが展開できるようにしていくことで、子どもたちの探求心や知的好奇心を育てていきたいと考えた。

園名：戸山第一子ども園

施設所在地：新宿区戸山2-26-101

## 2-1 活動スケジュール

第1回 5月16日(金)講師による保育者対象のワークショップ「砂遊びのスキル獲得」

第2回 11月7日(金)  
講義「砂場における子どもの発達と保育課題の確認」  
各年齢の実践活動内容事例紹介、実践報告

第3回 1月23日(金)  
演習「砂場保育の振り返りと今後の課題検討」  
各クラスの砂遊びに関する省察と課題検討

## 3-1

・活動のために準備した素材や道具

サンドローラー 大きなスコップセット 水流しセット キャッスル砂型  
砂型セット 四輪トロッコ 砂ジョーゴ 乗り物砂型セット ラックワゴン

・環境の設定

日よけテントを設定し、暑さ対策をする。水を使いやすいようにたらいやホースを用意した。

## 4-1 探究活動の実践 活動の内容

### ①思い切り砂場で遊ぼう

- ・新しい砂場の玩具を子どもが手に取れるように配置する。
- ・砂場で思い切り遊べるよう、場所と時間を設定する。自分たちで遊びが決められるように誘導しながらすすめていく。周りの遊びを知らせ、共有できるようにする。
- ・子どもの発想やイメージに共感し、保育者も一緒に楽しんでいく。

### ②お城を作ってみよう

- ・保育者が主導で作った砂の城を見る。触れて遊ぶ。
- ・必要な道具を出し、子どもたちだけでやってみる。
- ・保育者も一緒に作る。遊ぶ中で、成功のヒントを伝える。
- ・失敗を繰り返しながら、コツをつかんでいく。
- ・子どもたちだけで城が作れるようになる。アレンジしていく。

## 4-2 活動中の子どもの声、子ども同士や保育者との関わり

- ・砂山、トンネル、道路などそれぞれに作り始めるが、最後は砂場全体が街のイメージになって一緒に遊ぶ。街ができると、「川を作って水を流したい。」と子ども達から提案がある。
- ・砂遊びが好きな子ども達が継続して挑戦する。「壊れた！」「もう1回やってみよう。」と失敗しても諦めないで行う。
- ・特異な友だちのやり方を真似て遊ぶ。「どうやって作ったの？」「こうすると階段ができるよ。」と教え合う。



## 5-1 振り返り 振り返りによって得た先生の気づき

・砂場全体でダイナミックに遊ぶと、長い時間楽しむ姿が見られた。別々に遊んでいても、一人が提案するとイメージが共有されていく。街ができると、「水を流して川を作りたい」と考える子が多く、さらに遊びが広がっていった。

・保育者の援助なしに、友達と協力して作り上げた喜びが大きい。

・草をトンネルに見立てたり、飾りに使ったりするなど、子どもならではの発想が見られ、一つ一つに意味があって作られていることを感じた。

・園庭遊びの中で、砂の城作りを継続してきた。夏の暑い時期はできなかったが、9月に砂遊びを再開すると「お城作りをしたい」という声があがる。作り方もよく覚えていて子どもの成長とともに、協力する姿が見られてきた。

・保育者が道具の使い方を全て教えるのではなく、子どもが遊びの中で習得していった。得意な子は道具の使い方も独自の使い方を考えていた。友達の真似をしたり、イメージを出し合いながら遊びが広がっていく。砂を介した共感と人間関係を広げていく姿が見られた。





# 令和7年度とうきょうすくわくプログラム (戸山第一子ども園)

